

1 小・中学校における学校指導要領から

- 小・中学校社会科における目標は、「公民としての資質・能力」の基礎を育成すること【「公民としての資質・能力」とは】

広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者（民主的な政治に参画する公民としての）に必要な資質・能力【そのために行うこれからの学習（授業）】

- ・主体的に問いを設定し、課題を追究したり解決したりする学習の充実。
- ・課題の解決に向けて、多面的・多角的に考察、構想（選択・判断）、合意形成や議論を通して、自分の意見を説明、論述したりする学習。

2 小中学校における主権者教育の実際（北九州市立小学校 131 校、中学校 62 校）

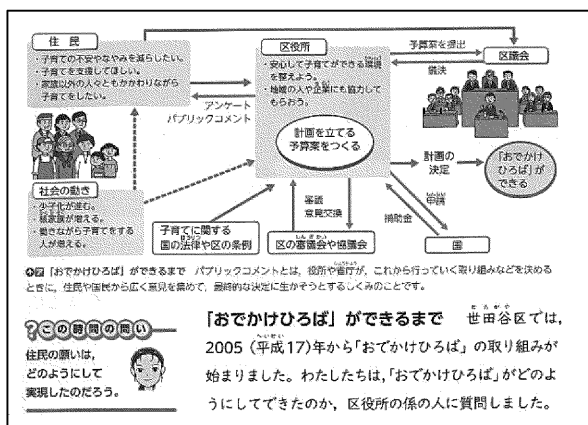
(1) 全校実施

① 小学校

教科	学年	単元等
社会科	3 年生	「私たちのまち」 まちの「おいしいもの自まん大会」をしよう。
	3 年生	「地いきの安全を守る」 地域の人たちと「安全会ぎ」をしよう。
	4 年生	「健康なくらしとまちづくり」 ごみのさらなる減量にむけて、どうすれば良いか考えよう。
	5 年生	「これからの食料生産」 国内の食料生産を発展させていくためには、どうしていけばよいのだろうか。
	6 年生	「くらしの中の政治」 国民主権について知ろう。

3、4 年生：副教材 SDG s の視点に立った地域教材資料集「わくわく北九州」を使用

5、6 年生：教科用図書



区長や区議会議員は、選挙で選ばれます。わたしたちは、選挙を通して自分たちの代表を選ぶことで、区の仕事（区政）の進め方を決めているのです。区や町が定める政治は、飲み水やごみ処理、福祉や防災など、住民の暮らしのさまざまな面に直接関わっています。

それぞれの地域の問題を解決し、よりよい暮らしにつながる政治を住民の意思にもとづいて決めていく（地方自治）うえで、市区町村や都道府県（地方自治体または地方公共団体）の役所や議会は大変な役割をこなしています。

キーワード：地方自治

地域の問題を解決するために区が取り組んでいることを、もっと知りたいたい。

模擬投票を体験！

選挙前日の投票できる時間は、午前7時から午後8時までの間だそうです。

投票用紙に記入するよ。台に仕切りが敷けてあるのは、なぜだろう。

投票箱に、鍵がかかっているね。

小学校 6 年生社会科教科書より  
(教育出版)

② 中学校

教科	学年	単元等
社会科	2年生	「男女普通選挙」「日本国憲法の制定」 民主政治の来歴について
	3年生	「民主主義と日本の政治」 選挙制度等について
		「地方自治と住民の参加」 地方自治の仕組みや課題等
		「よりよい社会をめざして」 地球規模の課題について

中2、3年生：教科用図書

**③ 18歳選挙権と私たち** ▶ これからの選挙制度

学習課題？ 選挙にはどのような課題があり、どのように解決が目ざされているのでしょうか。

● 2018年6月21日より、20歳以上から18歳以上に引き下げられました。

**選挙権の拡大** 公職選挙法が改正され、2016年から「18歳選挙権」が実現しました。選挙権年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げることは、日本では1945年以降の選挙制度の大きな改正となります。アメリカ、イギリス、フランスをはじめ、世界のほとんどの国では、すでに選挙権が18歳以上に引き下げられていましたが、今回の改正はその流れに沿うものです。憲法改正のための国民投票の投票権年齢が18歳以上になったことと合わせ、若い世代の政治参加への道が広がることになりました。

少子高齢化が進む中、若い世代の声を政治に反映させることは大きな課題です。若い世代の人たちが、今後どのように政治的な行動をとっていくのかは、日本の将来にとって重要な意味をもつこととなります。

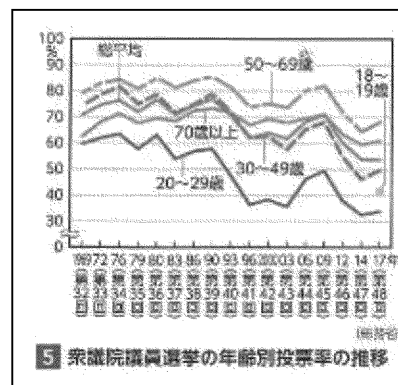
国名	選挙権*	投票権*	成人年齢
アメリカ	18歳	25歳	18~21歳
イギリス	18	18	18
フランス	18	18	18
韓国	19	25	19
日本	18	25	20 (2022年4月より18)
ブラジル	16	21	18

\*下段(韓国は一部)の年齢、日本は国民投票。(2019年1月現在)

● 各国の選挙権年齢、投票権年齢、成人年齢

これまで 選挙権に関する告知は、選挙カーによる音声、電話など

解禁後 SNS、ホームページなどで告知可能



中学校社会科教科書より  
(教育出版)

(2) 多くの学校で実施 (特別活動)

- ① 学級会活動で、自分たちの学級の役割分担や係を決めたり、学級のよりよい姿を求めて話し合ったりする。→ 自治意識を高める
- ② 児童会や生徒会役員改選において、立ち会い演説や投票を行う。  
(実際に、投票箱や記載台を使用する学校もある)  
→ 一票の持つ価値や参画意識などを醸成する

(3) その他顕著な事例

① 小学校

学年	教科	内容
5年生	総合的な学習の時間	まちのお年寄りが安全・安心に憩えるまちづくりを考える。地域景観プランナーになろう。

② 中学校

学年	教科	内容
2年生	社会科 (地理)	福岡県(北九州市)が今後発展していくための観光資源は何かを考える。
3年生	社会科 (公民)	大きな政府と小さな政府、日本によりよい政府はどちらかを考え、話し合う。
3年生	社会科 (公民)	北九州市のために、私たちにできることはないか、まちづくりのアイデアを新聞にまとめる。

# 県立高等学校における主権者教育

## 1 主権者教育の教育指導計画

- ・年度当初に各学校で作成
- ・「主権者教育の目標」「具体的内容」「年間指導計画」からなる

## 2 主権者教育の目標

- ・地域の課題解決に貢献する態度や主体的に考え、行動し、社会に参画する態度の育成など  
(例:小倉高校の場合)

身の回りの社会や地域、国、さらには国際社会における課題を多角的に理解した上で、その解決のために主体的に行動する能力を身に付けるとともに、公正な選挙や政治制度についての理解を深め、民主的な社会の形成に寄与しようとする態度を育てる。

## 3 主権者教育の内容の例

- ・公民科(「現代社会」「政治・経済」「倫理」)の授業
- ・生徒総会、生徒会長選挙
- ・模擬議会、模擬選挙
- ・総合的な探究の時間での探究テーマ
- ・出前講義、議会見学
- ・その他

## 4 主権者教育の課題

- ・選挙権年齢引き下げに伴う諸課題

## 5 今後の動き

- ・新学習指導要領の実施  
新しい科目「公共」
- ・成年年齢引き下げに伴う諸課題への対応  
高等学校を卒業する生徒は全員成年

## 若者の選挙に関する座談会

### 1 趣 旨

本年6月に設置した「投票環境の向上に関する検討会」では、若者に投票所へ足を運んでいただくため、「主権者教育の更なる仕組みづくり」や、「新たな選挙啓発の方向性」について議論を行っている。そこで、今後の議論の参考とするため、高校生、大学生、20代の社会人に率直に問う座談会の開催を行った

2 開 催 日 令和3年12月12日（日） 14:00～

3 場 所 小倉駅前カンファレンスセンター第8会議室（小倉興産16号館8F）

4 座談会テーマ （1）主権者教育について （2）選挙啓発について

5 コーディネーター 鶴田 弥生（ラジオパーソナリティ）

6 参 加 者 13名（社会人4名、大学生4名、高校生5名）

### 7 主な発言要旨

#### （1）主権者教育について

##### ア. 主権者教育について学んだこと

##### 【授業で学んだこと】

- ・高校1年のときに、現代社会の先生が2～3時間話してくれた。選挙の仕組みや、インターネットでの選挙運動でして良いこと、悪いことなど。内容的には盛りだくさんではあった。しかし、1人1人が選挙にどう向き合うかはなかった。
- ・授業としての覚えはないが、公民の先生が政治について熱心で、授業中に教えてくれ、興味を持ったことはあった。
- ・現代社会の授業でしくみを学ぶだけで、選挙を実感することはなかった。受験のための勉強という意識であった。
- ・主権者教育を受けた実感がない。公民でしくみは習った。投票しなかったら、こんなデメリットがあると教えてもらっていないので、自分事とは感じづらい。
- ・「選挙に行ったらこんな良いことがある」とか「自分がどういう社会で生きたいか」とかそういう事を考えて、それを叶えるために選挙があると教えてもらえたら、自分が大人になった時にどういう社会が良いのかと考える機会が得られたのではないかと。

##### 【体験型で学んだこと】

- ・授業の一環として、先生が仮の議題と架空の選挙を作ってくれて、クラスの中で模擬投票を行った。当時は、一種のレクリエーション的な感覚で受けた記憶がある。
- ・中学のときの生徒会選挙はすごく覚えている。本物の投票箱や記載台を使ったり、実際にポスターを校内に掲示したり、朝、校舎前で候補者が挨拶運動するなど、本当の選挙に近い感じでしてもらった。

##### 【その他】

- ・正直言って話しづらい。政治は、どうしても堅苦しいイメージがある。

- ・あまり選挙の話題は出たことがなくて、「あの人が当選した、やったー」って盛り上がる感じではない。盛り上がりにくい話題ではあるかなと思う。

## イ. どのような主権者教育が良いか

### 【外部からの講師等】

- ・外部から堅いイメージを柔らかくしてくれる人が来て教えてくれると良いと思う。
- ・先生だけでなく、大学生の意見を聞いたり。ユーチューバーが実際に選挙について発信する。インフルエンサーが選挙について話せば効果は大きい。

### 【話し合い(議論)の場】

- ・今日の座談会のように、いろいろな人から意見を聞く場があればよいと思う。先生だけでなく、大学生や社会人になったばかりの人など。これから自分になる姿のイメージがしやすくなる。
- ・著名な人を呼ぶのも良いが、自分のものとして考えていくには、体験型の学習も必要と思う。総合的な学習の時間の中で実際の具体的な政策について賛成反対を討論するなど。

### 【体験する授業】

- ・健常者の学校は1クラス38人とか、聾学校は6人。受け身の立場。教科書や机上だけでなく、投票ができる場所に行き実際に体験することも大事と思う。
- ・実際に選挙を手伝ったり、そういった方の体験を聞いたり、若い人が選挙を身近に体験してどう思ったかというところの意見も必要ではないか。

### 【その他】

- ・選挙に関して、高校からでは遅いと思う。興味を持つ人は持つけど、持たない人も多い。難しいことはできないかもしれないが、小学校の時から身近なものにした方が良い。
- ・各家庭で選挙について話したりすることはすごく大事ではないかと思う。妹が中1、小6の時に、学校でこんな授業をやったよ、みたいな話を家族一緒にした記憶がある。

## (2) 選挙啓発について

### 【投票しない理由】

- ・立候補者の訴えには、例えば教育に関することはあるが、どちらかというと親の方に目線が行って、自分たちに問いかけてくるものではないと感じる。
- ・行ったところで、何が変わるのかと思っている人は多い。自分が投じた1票がどうなったか。実感が持てない。






### 【制度や投票環境の改善】

- ・学校やコンビニなど若い人にとって行きやすい場所でやってもらえたら。みんな車を持っている訳ではない。
- ・インターネット投票ができればありがたい。

### 【インセンティブの付与】

- ・献血すると、アニメのキャラクターグッズがもらえる。選挙でもグッズや商品券がもらえるなら行くのではないか。
- ・安くてもいいので、ちょっとした粗品があれば、動機付けになるのでは。

## 本市選挙管理委員会が行う主権者教育の実施状況

	小学校段階	中学校段階	高校段階	大学段階
学校と連携した取り組み	投票箱、投票用紙記載台の貸出			新入生への出前講義 <ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙のしくみ説明</li> <li>・住民票異動の勧め</li> </ul>
	明るい選挙ポスターコンクール開催			
学校と連携した取り組み		中学3年生向け副読本の作成 	選管職員による出前講座の実施 	
			期日前投票立会人の体験(若松区) 	
家庭等と連携した取り組み	PTA広報誌への啓発記事掲載			大学生のつどい <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学祭等での自主的な選挙啓発</li> <li>・啓発動画の作成(H30)</li> </ul>
	親子向け模擬投票イベントの実施 